

## 2023 年度入学記念講演 和歌山市医師会看護専門学校

テーマ：「医療者として仕事の質を向上させるために大切な3つの視点」 & 「いつかきっと役に立つ  
3つのお話」

### [1 学年]

- ・患者さんによって考え方が異なるから、人によって行う治療は異なるんだと思っていました。そうではなくて、その患者さんに対してどれだけ真摯な姿勢で全力で治療することを貫くことが出来るのが大切なんだと分かりました。それが患者さんと看護師や医師との信頼につながっていくのだなと思いました。信頼を患者さんと築き上げることが出来たら、患者さんにとって頼りになる人になることが出来ると改めて思いました。先生がおっしゃった「夢は逃げない、逃げるのは自分」という言葉を聞いて、自分も逃げずに看護師になるという夢を叶えたいです。
- ・同じ病気でも症状に個人差があったり、治療効果に対する個人の満足度が違ったりすることに驚きました。治療を進めていても上手くいかないことが多いという事実があり、いかに患者さんに誠意をもって向き合っていくことの大切さや、寄り添いや励ます言葉を掛けることの重要性も学びました。患者さんに信頼してもらえるような責任感のある看護師になる為に、これからの3年間しっかり看護師に必要な知識、技術を身に着けたいと思います。また、些細な事にでも気付いてあげられるようになるために、たくさんの実習を通して観察力を磨いて一つでも多くの患者さんの情報を増やし、自ら積極的に必要な情報を取りに行くように行動をしたいと思いました。
- ・私は今まで医者と患者で満足度に差があるのは当然で、それは両者の知識や経験の差によるものだと考えていました。しかし、先生の話聞き患者への丁寧な説明や適切な処置で差を縮められると知り、患者に向き合い、情報を提供する重要性を学びました。また、社会人が成長する為に「広く深く学ぶ」「ピボット戦法」が必要であるという話は、新しいことに挑戦するすべての人にも言えることだと思い感銘を受けました。先生の話胸に刻み、これからの3年間、勉学に励みます。講演ありがとうございました。
- ・医療者と患者の間で、なぜ満足度が違ってくるのかという議題で、目指すのは満足度だけでなく、どれだけ真摯に向き合うかだと聞いてすごく納得しました。人それぞれ考え方や感じ方は違っていても完治は難しくても真摯に向き合うことで満足度が変わってくるということをよく理解できました。ピボット戦法という言葉の意味をしっかりと理解し、忘れずに看護師を目指していきたいと思いました。この言葉を聞いた時、自分に自信を持つのが苦手な自分でも自信を持てるかもしれないと思うことが出来ました。今回お話していただいた内容は、すごく自分の為になりました。初めて知る事、思うことが多くありました。これからの勉学に活かしていけるようにしたいです。
- ・治療効果に対する満足度には患者さんの性格、病状、家族の考えなどで差があることが分かった。患

者さん1人1人に同じ病気でも治療を前向きに考えてもらうために、看護師は声掛けやその人に合った治療法を見極め、実践していかなければならないのだと感じた。名看護師になるためには知識だけでなく、目配り、気配り、心配りが大切だと聞き、日常的に人間を観察するだけでなく、その人の表情や仕草から変化に気付けるように日々考えなければいけないと実感した。

- ・良好な患者との関係は、友達関係も大切だけど信頼されることも大切だと分かった。これから学んだ事は徐々に完璧に出来るようにしていこうと思う。
- ・情報を受け取るには自分から取りに行く、掘り起こしていくことが大切。自分の得意なことを探す。5段階で質を高めることが大切。これから活かしていこうと思う。
- ・医療者として仕事の質を向上させるためには、「3つの視点」が大切なの分かりました。病気を治すためには看護師も患者さんも医療の全員が頑張ることが大切です。難しい用語がたくさん出てきたので勉強して覚えていきたいと思います。
- ・病気が良くなったとしても完治しなければ満足しない人がいたり、完治はしていないけれど満足だと感じる人がいたりして、病気が良くなるだけでは皆が満足するわけではないんだと思った。
- ・入学記念講演を受けて、すごく感心したところもあり、とても勉強になりました。この講演の内容を覚えておいて実習の時に使えるようになっていきたいです。
- ・今日の講演で岸本先生がおっしゃっていたことを患者さんと向き合うときに意識し、活かしたり、行き詰ったら基本を見返したいと思います。
- ・患者さん1人1人からたくさん学べることや考えられることがあるので、これから様々なことに対応できるように、勉強や練習を頑張っていきたいと思いました。「あたりまえをやりきる」という言葉はこれからもとても大切な事なので礼儀や技術、言葉遣いなどのあたりまえをやりきれるよう頑張っていきたいと思いました。
- ・治療効果の満足度の差があるという点に関して、私たち医療者が出来るだけことをしても、患者が納得しなければ良い医療者になれないということが分かった。完治<<納得であり、医療者の患者と向き合うことが信頼につながると思う。地味な作業を繰り返すことで患者の容態を見抜く。基本それこそが医療者の本質ではないかと考えた。
- ・医療者と患者との間で満足度に差が出るということを今まで気に留めることがなかったので、今回知ることが出来て、とてもこれからの為になると思った。いつどのような状態に置かれても冷静に判断し、行動できるよう知識を身につけ、手元にない情報も自ら取りに行くということを学べて役に立つと思った。患者を不安にさせないためにはまず自分自身が自信を持つことが重要になる。そこで自信

を持つため、行動を起こす前に不安を消す。不安を消すために“逃げるわけにはいかない”という強い責任感を持つことが大切だと教わった。看護師になる上でどれも大切な事ばかりだったので活かせるようにしたいと思った。

- ・今回の令和5年度入学記念講演では、将来看護師として働き成長していくうえで、どのようなことが大切なのか学べました。講義の中で前半にお話しされていた「3つの視点」では、それぞれ実際に患者さんと関わらないと分からないだろうと思うものがたくさんありました。そして患者さんと実際に関わる看護師には欠かせないものだと感じました。特に1つ目にあった「医療者」と「患者」との間で、なぜ治療効果に対する「満足度」に差があるのか。では、正の集中をする患者さんと負の患者さんがいるということについてはとても興味深かったです。話を聞いているうちに「正の集中をする人と負の集中をする人の両者がいるのならば、治療効果に対する満足度の差を埋めることは難しいのでは？」と疑問に思いました。ですが、最終的には満足度ではなく、“何”を目指すかが大切だと聞いてとても納得しました。治療効果だけでなく治療をする過程で患者さんの感じ方は変わるので真摯な姿勢で患者さんと向き合い、納得してもらうことが大切だと思いました。後半にお話しされていた「3つのお話」では、看護だけでなく、普段の生活でも役立つお話をしていただきました。私はいつも何かに挑戦するときにとっても緊張してしまったり、心配するのですが、今回のお話を聞いて本番になる前にたくさん準備をすることが大切だと改めて感じました。責任感を感じたり覚悟をすると緊張することは当たり前なのでそれらを超えられるような準備を心掛けていきたいです。実際に経験しないと分からないようなことをたくさん教えていただけて本当に有意義な時間でした。実習に行く前にはこの講演のメモを見直して実践していきたいと思います。
- ・患者さんが一番求めている事は、病気やケガの完治で、そこから信頼関係になっていくことも学べました。看護師の基本的な技術はもちろんですが、より高度な医療を提供できるかも大切になってくるので、これからしっかり身に着けていきたいです。“夢は逃げない、逃げるのは自分”という言葉にとっても刺激されました。これからくじけそうな時でも、この言葉を思い出して乗り越えようと思いました。
- ・この講演で、医療者と患者さんの満足度の違いをしっかりと理解することが大事なんだなと思いました。
- ・入学記念講演の授業を受けて、患者さんと医者での関係や患者さんの病症について見ながら先生の説明を聞きました。医者が満足しても患者は満足するわけではないので、患者さんの思いやりに寄り添って医者と患者さんとの間の関係が大事だと分かりました。医者や医療従事者たちは患者さんへの思いやりを持ち、コミュニケーションをうまくとりながら向き合っていくことが患者さんと医療従事者によって考えながら行動すべきだと学び分かりました。
- ・看護師として大切なのは、患者の方に対して真摯な姿勢で誠意を持って向き合うことが大切だと学びました。信頼関係については、患者の方とコミュニケーションをとる中で医療者としてのレベルが低

ければ決して信頼されることは無いという言葉に共感しました。そして、本日の講演を聞いて看護師を目指すモチベーションが上がりました。

- ・入学記念講演を聞いてとても勉強になりました。まず、医者と患者でなぜ満足度が生じるのかという問題について、医者は客観的で患者は主観的であるからと聞いてすごく納得しました。患者にも「正の集中」（大体のことは大丈夫）と「負の集中」（次から次へと悩む）、2つの種類に分けることが出来ることを知りました。そして見えない情報まで掘り起こすことは「仕事の醍醐味」、情報とは「人の情（こころ）を報いる」ことであると学び、医師として患者さんの目では見えない部分まで理解し、解決することが大切であると改めて思いました。また、良好な患者と医師（看護師）の関係が大切で、関係とは、「友達関係≠信頼関係」であることで、「友達」になれたとしても医療人としてのレベルが大切であると学びました。今回の講演を聞いて自分の知らない医療の事について色々なことを写真などを見たりし、学ぶことが出来てとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・医者と患者さんのどちらも満足度が高い時はいいけど、低い時は満足度ではなく真摯な姿勢で誠意を持って向き合うことが大事ということが分かった。
- ・入学したばかりで分らないことだらけですが、お話を聞き、看護の仕事に今以上に魅力を持ちました。多くの方に信頼される魅力的な看護師を目指します。少しずつ得意なことを増やして、行き詰ったときには原点へ戻り、何度も繰り返し努力していきます。
- ・専門用語が多かったので、理解できないところも多くあった。なので、これから今日の講演の内容が理解できるように学んでいきたいと感じた。そして、子供が病院をたらい回しにされたという話を聞いた時、当事者でない自分でさえ悲しい気持ちになった。また、その子供の皮膚の病気が完治しなかったがその子の親は満足していたと言っていたそうだ。これは医師や看護師が真摯な姿勢で誠意をもって対応してくれたからだと言っていた。この話を聞き、どんな病状でも諦めずに真摯な姿勢でいることが患者と接する上で大切な事の一つだと思った。医療は腕のいい医者と看護師、そしていい患者がいることが大切であるということだったので、自分がそのうちの1人になれるよう頑張っていこうと思った。
- ・自分達にどれだけ真摯な姿勢で誠意をもって患者に寄り添う。患者が求めているのは当然に「完治」だと思うけど、それ以前にどれだけ寄り添っているかだと思う。自分が患者の立場だったら、話をスーッとと言われるだけ言われて完治するのと、真剣に悩みを聞いてくれて、こうしたらその悩みも解決できますよ！一緒に頑張りましょう！とかいわれると満足する。医療はチームワークなので誰か一人が頑張れば良いわけではない。看護師になってからでも学生でも役に立つピボット戦法。行き詰ったら原点に戻る。1つだけでいいので自信のある能力を身に着ける。質を高めて自分だけのモノにする。1回出来てもそのままにしない。不安を消すためには「責任感」逃げてはいけない覚悟。そうありたいという気持ちをずっと持ち続けながら日々積んでいくことが大事。どの言葉も看護師になってからもすごく大切に役に立つ話でした。

- ・戦う場所が常にあるという意味を持つ「常在戦場」という四字熟語を先生から教えてもらった。「常在戦場」は戦場は生きるか死ぬかの場所であり、Good ドクターがおり、寄り添い向き合う Good 看護師、維持することが出来る Good 患者が必要であるため、この Good ドクター、看護師、患者は、誰一人欠けてはいけないと改めて学ぶことが出来る講演だった。
- ・情報を提供する側と受け取る側では、提供する側は正しく情報を伝えることが大切だが、受け取る側は真実を分析したり、また提供された情報が不十分な場合は、想定した疾患に裏付け、必要な情報を集めたり、見えない情報まで考えておくことが大切だと分かりました。また、目標に向かって何かをするときは、責任感や覚悟を持ち、目配りや気配り、心配りなど、日々積み重ねていき、当たり前のことを当たり前にしていきたいと今回の講演を聞いて思いました。
- ・講演を聞いて医者が患者さんに寄り添うことが大事ということを改めて思った。友達関係と信頼関係は違うと言っていて患者さんに接するとき、友達関係みたいに接することはダメだと教わり、今後気を付けていこうと思いました。看護師の大事さも学びました。
- ・医療者と患者に客観的、主観的な違いがあるとあまり考えたことがなかったです。患者さんにも満足差があって正の集中、負の集中というものがあるのは初めて知りました。でも、真摯な姿勢で誠意を持って向き合うことが大切と言っていたので頭の片隅に入れておこうと思いました。そして、情報提供と受取りでは自利より利他を考えることが大切なのも考えさせられました。Good nurse には寄り添ったり、指導したり、励ましたりすることも大事ですが、忠実さも大事で、すぐに対応できることが必要だからだと知りました。自分も患者さんには目配り、気配り、心配りをしたり、話を傾聴しながら表情や仕草を見たりして責任感をもって看護したいです。
- ・今回の講演を聞いて、医療者として仕事の質を向上させるためには、自分だけでなく患者や医師など相手との関係性も大切だということを感じた。例えば、患者との治療効果に対する満足度の差では、医師と患者の両方の治療に対する満足度の評価が高ければ良いが、どちらかの満足度が低い、もしくは、どちらも満足度が低いと評価は下がってしまう。そのために、何を指すのかを明確にする必要があると感じた。完全に治らないからといって何も言わなかったり、何もせずにたらいまわしにしてしまうと患者の満足度は下がってしまう。少しでも症状を和らげるような治療をしたり、真摯な姿勢、誠意を見せることによって、向き合ってくれたという満足度に繋がっていくため、とても大切だと感じた。他にも、患者の治療を進めていくにあたって、様々な職種の方と連携していくことが大切だと思った。医師には医師の、看護師には看護師の、それぞれの職種には役割があり、それぞれ役割をきちんと果たすことによって、患者の症状がどれほど重症であっても症状を和らげた状態を維持することができるため、連携が大切だと思った。そのためには、情報の提供受け取りをするためのコミュニケーション能力が必要だと感じた。他にも、自分の役割をきちんと果たすためには、正しい知識と技術を身につけ、いつでもその責任を果たせるように自信を持つことが大切だと感じた。そのために強い意志を持つことが大切だと思った。

- ・私はまだ1年生で、医療の言葉とか病気の事とか分からなかった所もありましたが、医療と患者さんの満足度の差の話では、完治させる事も大切だけど、どれだけ患者さんに真摯な姿勢で向きあったかが大切だという事を学びました。話を聞いて一番感じた事は、上の文でも書きましたが、病気を完治させるだけでなく心の面もケアしてあげる事が重要なんだなと思いました。自分がどのような看護師になりたいか考えた時、同じ事を考えていたので、このような看護師になりたいと思いました。いつかきっと役に立つの話では「決意」と「覚悟」が必要という事を知りました。すると決めた時、よそ見せずにやり切ろうと思いました。たくさん事を学びました！ありがとうございました。
- ・今日講演を聴いて思ったのは、病気が治っても患者さまが満足しないことがあるということです。治療が面倒に感じていたり、お金の問題だったりと色々なところに不満や不安に感じているのだと気付きました。
- ・私はまだ入学したてで、看護師がどのような意識を持って働くべきなのかイメージがつかめていませんでしたが、今回70分近くお話をしてくださったおかげで、少しイメージすることができました。特に印象に残っているのは、ごまかしが聞かないのが医療現場ということと、見えない状態まで掘り起こし、点と点をつなげるという話です。なりたい看護師像が少し見えた気がしました。今回のお話しのテーマが暗記ではなく考えるということでしたので、しっかり考えながら拝聴させていただきました。本日は本当にありがとうございました。
- ・初めに医療者と患者との間で治療効果に対する満足度の差についての話を拝聴し、医療者と患者の間では主観が異なるのと、患者のタイプによっては同じ効果でも捉え方が大きく異なることを理解しました。私は将来、仕事の効率さから基本を忘れずに、患者と信頼関係を築き、より患者が前向きに自分の病気と向き合っていけるサポートをすることで、全ての患者に満足してもらえる看護師になりたいと考えました。最後にこれから自分を成長させていくために、自信と意志力と責任感を常に持って行動し、自分が得意とする軸をさぐりながら挑戦していきたいと感じました。
- ・今回記念講演を聞いて、医療者の事や患者様、仕事の質を向上させるために必要な事など、普段では知ることのできない話などを聞き、学ぶ事やこれからは活かそうと思う事が多かった。医療者、患者ではなぜ治療に対する満足度に差が生じてしまうかということに対し、医療者は客観的で患者は主観的という考え方であり、このちがいが1番の問題という事が分かった。自信について・・・不安を1つずつ消す、そして不安を消すために1番力を発揮するものは、責任感・覚悟という事が分かった。目配り、気配り、心配についてや看護への学びについてなども知ることができた。
- ・今回話を聞いて、まだ入学したてで知識も技術もない私ですが、少しだけ患者さんへの向き合い方などを知り、考えることができました。医療者が100%の治療方・対応をしても患者さんが満足するかは別で、9割病気が治ったとしても1割残っている方に気が向いてしまう人もいます。なので、完治しなくてもしっかりと向き合っ治療方などを伝え納得してもらうことが大切なんだなと思いました。その上で患者さんに自己管理などをしてもらい少しでも完治に近づくように寄り添う、そん

な看護師になれるように覚悟を決めて責任感を持てるようにこの学校で学んでいきたいです。改めて看護師になりたい、頑張りたいという気持ちがわいてきました。「夢は逃げない、逃げるのは自分だ」という言葉が1番印象に残っているし、これからも逃げたくなったら思い出そうと思います。

- ・〈医療者〉と〈患者〉での治療に対する満足度の差を見て、10のうち9が治り満足している患者さんと、残りの1に気持ちがずっとある患者さん。どちらも悪くないけれど、色々な患者さん、病気がある中で出来る限りの治療をし、納得してもらえらるまで説明をして話を聞く。とても大切なことだと思いました。現代では、ネットやSNSで様々な情報が簡単に得られ、正しいか間違えているか判断がとてもむずかしいです。医療現場では、正しい情報を正しく伝達することがとても大切で、その上で、選択していく必要があると今回のお話で学びました。〈後発医薬品〉ジェネリック医薬品は、色々な病院や薬局で目にし説明されますが、同じ成分で値段が安いのみでした。主薬以外、何が入っているか分からなく、臨床試験も行わず副作用の安全も保証されていないなんて知りませんでした。私なら全て説明した上で選択してもらいたいけれど、医療現場で働くと言明できない理由があるのかな?とも感じました。金儲けに必死な病院ではなく、患者さん1人1人に寄り添い信用してもらえらる病院で看護師をしたいです。自分のすべきことをできるきちんと人としても成長できる3年間にしたいです。

## [2 学年]

- ・医療者と患者の間で治療の満足度が違うという視点では、医師は客観的にデータが写真を見て考えるのに対し、患者は主観的に治療の結果を受け止めることによって意見が分かれるということを知りました。医療者側が良い状態か悪い状態かを判断するのと患者側が良いか悪いかを判断するのではそれぞれ意見が異なる事例を聞いて、患者の受け取り方によって結果にも影響が出てくるのかと思いました。少しでも改善されていると受け止るか、これから先治らないと決めつけるかで、治療への取り組みの熱意が変わってくるのではないかと思いました。治療がうまくいくには良い医師と良い看護師と良い患者が必要だと言っていたけれど、まさにその3つがそろっていないとうまくいかないのだなと改めて思いました。
- ・ある人が他の人に馴れ馴れしく接していても、それが信頼していることの表れであるとは限らないと岸本先生は仰っていた。これは全くその通りであり、わたしも周囲の社交辞令に惑わされず驕ることなく日々精進していきたいと考えている。後半では精神論や宗教的な話もあり私は正直あまり理解できなかったのだが、最後には「自分が正しくないと思った話は取り入れなくても良い」とも仰っていたので私はむしろそういった多様性を尊重できる寛大さをいつまでも忘れない心を見習いたいと感じた。
- ・医療者として仕事の質を向上させるために大切なことは、医療者と患者との間で治療効果に対する満足度に差が生じないようにすることだ。医療者は客観的に患者を診て、患者は主観的に考えるの

で、医療者が患者によりそうことが大切だと考えた。そして、基本的に忠実であることだ。セルフケアの方法を伝えることで治療効果を上げることに繋がると考えた。いつかきっと役に立つお話では、自信を持つためには自分の中にある不安を1つずつ消していくことだ。逃げないことや、責任感を持ち、自分に向き合うことが自信を持つことに繋がると考えた。集中力を高めるには、余事を取り除くことが大切だ。「夢は逃げない、逃げるのは自分」この表現が私に響いたので頑張りたいたと感じた。

- ・医療者と患者との間で、満足度を目標にすることは無理ということが分かりました。看護師が患者に必要な看護を行っても、患者は満足しているかが分からないから、それから仕事するうえで大切にしていきたいなと思いました。医療において、いろんな技術が進化して行って、自分でできることが少なくなっている、できないことが増えていることが分かりました。(医療だけでなく)だから、1つ1つ説明することが今までより一層大事なことが分かりました。そして、正しい言葉を使って説明をしないとダメだと言っていたので、気を付けていきたいなと思いました。看護でも何でもそうだけど、今わかっている情報だけを頭に入れておくのではなく、見えない情報まで掘り下げることが大事だし、心の内側まで読み取ることを意識して、この人はどう思っているのかを考えて行動することが大切だと分かりました。
- ・まず、医療において情報を正しく知るとはとても大切であると私も同じく感じた。例として挙げられていたジェネリック医薬品は確かに低価格で効果が期待でき私たちにとってありがたいものだ。しかし、効果や安全性などに多少なりとも差があることから、その違いを認識した上で使用するよう心掛けなければいけない。大抵の人にとっては安全に効果が期待できるとはいえ人の体質は千差万別あり、中には医薬品が何にも合わない人もいる。そのため、情報だけでなく悪い情報や見えづらい隠れた情報をしっかりと知ることが重要であると学ぶことができたと感じている。また、患者さんに対する情報を集める場合も本質は同じであり、ただ業務的に淡々で行うのではなく、講演で言っていたように「心の知らせを感じとる」が大事だ。私が今後、看護師となり、仕事が慣れ落ち着いてきたときに思い返した言葉だと感じた。患者さんとのコミュニケーションについて話されていた時、患者さんとのコミュニケーションは友達になることが目的ではない言葉に少しハッとした。1年の頃の実習で、小さな診療所に行ったとき、そこでは看護師はかなり親しみやすい言葉遣いで話されていた。それこそまるで友達のようなようだった。そのとき私はこのようなコミュニケーション方法を1つの学びとして受け止めた。しかし、これにはまだもう1つ先に学ばないといけないことがあることを今日私は知った。確かに患者さんとのフレンドリーな会話は患者さんに不安を与えないようにするために効果的だが、その本質は友達になることが目的ではないということだ。看護師は患者さんに信頼してもらえるように立ち回らなくてはならない。その方法の1つとしてこのようなコミュニケーションがあるとういだけであり、友達のように話すことと、患者さんからの信頼はイコールではないということを私は学んだ。
- ・今回の入学記念講演の話を聞いて、まず、医療者として仕 質を向上させるために大切な「3つの視点」は、医療者と患者さんでなぜ治療効果に対する満足度に差が生じてしまうのかと、3つの医師・

看護師、患者の Good と情報は自分でとりに行くことです。医療者は客観的で、患者は主観的だと学びました。また、正の集中、負の集中にも分けられることも学びました。医療者、患者ともに満足度が低い場合は、満足度ではなく、何を指せば良いのかが大切です。薬をもらいに行くときに、先発医薬品にするか、後発医薬品(ジェネリック薬品)にするのか聞かれるので、この話も聞けて良かったです。医師と患者の関係についても近すぎても遠すぎてもダメだと聞いて距離間を取るのが難しいなと感じました。もうすこしすると実習があるので距離の取り方についてまた勉強しようと思いました。

- ・今回の講演を聞いて学ぶことができた医療者として仕事の質を向上させるために大切な「3つの視点」である1つ目は「医療者」と「患者」との間でどうして医療効果の差が出るのか。2つ目はすべての疾患に対する高い治療をすること。3つ目は、情報は自分でとりにいくこと。また、いつか役に立つ力も学び、1つ目は自信をもって臨めること。2つ目は集中力を高めること。正の集中、負の集中でポジティブかポジティブでないことも学べ、良好な患者、医師の関係を築くことが大事であると学べた。
- ・今回、入学記念講演では岸本先生の今までの知識や経験によるこれから私たちに必要となる大切な話を聞くことができた。特に学ぶことができた内容は、医療従事者として仕事の質を向上させるために大切な「3つの視点」についてです。1つ目は、医療者側と患者側との間での治療に対する満足度についてです。医療者側を患者側の満足度が違ってくるとより良い医療を提供することができない。医療者側は医療についての満足度だけを考えるのではなく、どうすれば、患者が満足と感じられるのかを考えることが大切である。そして、両者の満足度を満たし高い評価を得られるようにしなければいけない。2つ目は全て疾患に対して高い治療をすることです。全ての疾患に対して高い治療をするためにも、基本に忠実である事が大切となる。基本というのは多くの知識や技術のことであるため、私も学生の間から多くの知識と技術をしっかり身につけていくべきだと改めて考えることができた。3つ目は、情報を提供する側と受け取る側が常に気をつけることです。例えば、受け取る側が気をつけることは、主観を挟まないことです。他にも、見えない情報まで掘り起こすことも大切であることを学んだ。見えない情報まで掘り起こさなければ気づかない間に病状が進行してしまう可能性があるということも学ぶことができました。これらの3点からも、多くの大切なことを学ぶことができたため、残りの学生生活にも有効に活かしていきたいと考えることができました。
- ・私はここ最近ずっと体がかゆく、医師にアトピーだと診断された。薬を塗ってもかゆみはあまり治まらず、アトピーの人たちはこんなにも辛くて悩まされているものだということが私自身なってみて良く分かった。先生の話聞き、自己管理ができるかできないかで大きく変わることが分かった。体重を減らさなければいけないことであったり、薬の塗り方であったりは自分自身がするかしないかで大きく変わり、良い方向に進むことができるのだと、改めて理解できた。また、満足度は人それぞれで治る病気ばかりではないということを入念に入れておかなければならない。また、医療は誰か一人が頑張れば良いというのではないことが分かった。そして、実行できるようになるためには知識量だけでなく、やり抜く力、やるかやらないか、意志力がとても重要になっていきそこで差が生まれるのだと

理解した。成功するまでやり続けるや努力やいつまでたってもやらない自分は、それがかけている。だからこの話を聞き、少しでも自分を自分が変えていかないと、良い医療従事者にはなれないと思った。だから、少しでも変わる努力をしたいと思う。

- ・今回この入学記念講演を受け、仕事をする上での大切なことを学びました。その中でも 一番自分の中で大切だと思ったことは、医療従事者同士の協力です。医療は誰か一人が頑張ればいいというものではなく、それぞれの役割をもった医療従事者たちが一緒に行くことで、その患者にとってよりよい治療ができるのではないかと改めて考えることができました。また、役割を果たすには個々の技術や知識が必要になります。なので、知識を多く身につけて技術につなげていけるように学びも大切にしなければいけないと考えました。
- ・医療者の満足度は客観的に評価するもので、患者の満足度は主観的なものなので、しっかり考えなければならぬと学んだ。仕事は基本が大切であり、その中で情報は全てを受け取らず、全部理解した上で、受け取ってよいかを判断し気をつけなければならない。また医療者は患者からの学びをフィードバックすることがとても重要だと知ることができた。自信を持ってのぞむには、準備の段階で不安を減らし行動するときは楽観的に考え、不安を減らすためには責任感を持って向き合うことが大切だと理解した。集中力を高めるためには、余事を減らし余事を切り捨てることが重要で、周りをみながらやるべきことをすることが大切だと分かった。結果がでないときは、ポイントをのがしてはいけない、やりきれなければいけない、決意と覚悟が大切だと学んだ。医療者にとって目くばりや気くばり、心くばりは重要でこれらは当たり前のことを当たり前にきちんと行えばできることであるが、簡単にみえて以外に難しいことで、しかしこれは看護師としてもチーム医療を行う上でとても重要なことではあるため、 当たり前のことをあたり前以上にできる人にならなければならぬと知った。また、看護では、傾聴、観察などの口以外をみることも大切だと学んだ。患者が常に口で感情や体調を表すとは限らないため、いかに観察し変化に気づけるかが重要だと知った。魅力的な人間になるために、表面的な技術を磨くのはもちろんのこと、見えない、気づいてもらえない内面を磨くよう努力する、またそうなりたいと思いながら 日々過ごそうとすることができました。一人の人間としてまたこれから医療者の一人になる人間として大切なことをたくさん学ばせていただきありがとうございました。講演の中で印象に残った “夢は逃げない、逃げるのは自分、” という言葉を胸に頑張ります。
- ・私は「医療者と患者との間でなぜ治療効果に対する “満足度、に差が生じてしまうのか」という問題の理由が医療者は客観的、患者は主観的であるとあるということに納得しました。捉え方が違うことで治療効果に対する満足度が違うこともあたり前だと感じました。他にも情報は一部だけ切り抜いて信用するのではなく、情報を全て知ることが大切だと分かりました。幅広く積極的に情報を収集することが大切だと分かりました。「これだけは自信があることを作る」という話では、将来きっと役に立つなと思いました。自信を持つには、自分から逃げない、自分に向き合うことが大切で患者さんも自信のある看護師にケアをしてもらおう方が安心だと思うので、自分に自信をつけて信頼してもらえぬ看護師になりたいと思いま

した。「成功するまで1つの道を進む」という言葉は今の自分にも将来の自分にもすごく自信のつく言葉だと思いました。しんどくても辛くても1つの道を信じてすすみたいと思いました。

- ・今回の講演を受けて1番印象に残っているのが、「医療者側」と「患者」の満足度の違いです。客観的に見るのと主観的に見るのでは、治療の満足具合が変わってくるため満足感が違ってくると学べた。また、医療者側の満足度が低くても患者にどれだけ寄りそえるかで、患者の満足度が変わると伺って現場に出た際は患者一人ひとりに寄りそえる看護師になれるように普通の授業から知識を身につけて、様々な疾病に気づけるように努力したいと感じた。そして、広く、深く知識があり、技術がある看護師になりたいが、始めのうちは、1つ1つ得意な事を見つけて知識をつけていきたいと感じた。そして、集中力を高めるには、どれだけ気を取られる事から切れるかだと聞いて、これからは気を取られる事、例えば携帯等は、勉強時は近くに置かないなどして、集中力を高めていこうと感じました。
- ・今回、医療者として仕事の質を向上させるために大切な視点で、とても良いと感じた事は、「ピポット戦法」である。自分の中で得意な事を軸として、他の事も少しずつできるようにする事が大事と言っていて、確かにいろいろな業務を幅広くするのはなく確実に業務ができるように、少しずつ10回やったうち、1回でもできたら良いと言っていて中途半端にならずに仕事の質の向上ができていくのではないかと考えた。在宅の実習などで臨地に行かせていただいた時、看護師やスタッフの方が利用者の方に敬語ではなくタメ語で親しくしている様子があって、今回の講義では友達関係(親しくなれなれしく)≠信頼関係とは言えないと言っていて、コミュニケーションの取り方であっても、患者や利用者の方に質の良い看護や援助は行えないと改めて学ぶ事ができた。これから2年生として実習に行かせていただくなかで知識だけでなく、相手の心に寄り添った看護を提供し、満足度を高める為に日々勉学に励みたいと感じた。
- ・私は、講演を聞いて、治療効果の満足度の差について、理解しました。医師と患者の間で、医師は、客観的に見て、データで判断するところを、患者は、主観的に考え、気持ちの問題だということを知りました。だから医師や看護師の医療従事者は、患者さんにどれだけ真摯に向きあうか、完治できないものであっても、前向きに向き合ってくれるかが大切だとわかりました。また、「常在戦場」つまり、多職種連携と似たものなのかなと 思ったのですが、それぞれに医師には医師、看護師には看護師の役割があるように、それぞれがきちんと役割を果たし、看護をよりよくする大切さも知りました。本当にとても役に立つお話でした、ありがとうございました。
- ・患者と医療者との間での治療の満足度の違いがあり、医療者だけが満足していたり不満足であっても意味がなく、医療者があまり満足していなくても患者が治療に満足していれば治療は成功であるといえる。患者が納得することにより患者との信頼関係を築けるということ学んだ。また、正しい情報をしっかりと理解し説明することも患者との信頼関係を築ける。正しい知識を身につけ、患者のデータや内服薬、観察から必要な情報を得ることが大切だと改めて学んだ。言葉だけでなく、注意深く観察し、異常に気付くことなど、基本的な技術が重要となることも学んだ。

- ・医療者と患者との間でなぜ医療効果の差が出てしまうのか、なぜ治療効果に差がでてしまうのかは患者の気持ち次第や良くなっても気持ちが晴れないなどの原因があり、正の集中と負の集中があると学んだ。患者と接するとき主観が付着していると正しい情報が取れないので主観を取り除く必要がある。友達関係と信頼関係はイコールの関係ではない、医療者としてレベルが低ければ信頼されることはないと学んだ。医療者のレベルを上げるには広く濃くが理想であるが、広く薄くピポット戦で取り入れていくのが大切だと学んだ。ピポット戦法は自信があることを1つでも作る、だんだん増やしていくということだ。目配り、気配り、心配りが大切であるということ学んだ。
- ・入学記念講演を受けて「患者と医師の満足度の違い」について学ぶことができました。患者さんは10個ある問題が9個解決すれば満足する正の集中を持つ人と、残りの1個が解決しないことに考え込んでしまう負の集中があることを学んだ。残りの1つに対しきちんと説明をし、患者に不安が残らないようにすることが大切だと思った。また看護師になるうえでプロフェッショナルであることを自覚し、プロとしての意識を持つことが大切だと思った。患者からみるとプロの看護師であるため、1人1人の患者に対してプロとしてふるまうことが大切だと学んだ。
- ・入学記念講演をしてもらって「3つの視点」と「3つのお話」を聞かせてもらった。どの内容も通常の授業ではあまりやらないようなお話でとてもおもしろかった。私は、3つ目の話が一番頭に残っている。「口は1つだけなぜ耳と目は2つなのか」という話だ。それがなぜなのかというと、よく見る、よく聞くことが大事であり、言いたいことが常に言葉で表現されるとは限らない。もっと大事なことは他のしぐさや表情から読みとれるということだった。私が看護師になったときには患者の言葉だけでなくしぐさや表情などの目からわかるものも重要視して思っているけれど、言わないことに気付いてあげられるような人になりたいと思った。また、「手え合わせる」という行動は「もう片方の存在=相手が大切である」という意味が「手を合わせる」にはあるということを知った。何気なく毎日のようにやる行動にも深い意味があるのだと知る機会になって良かった。1つ1つの行動に気を付け、信頼される看護師になろうと思った時間だった。
- ・岸本先生の講演を聴き、看護師としての心構え、役割を改めて認識しました。医療従事者と患者と満足度に違いがおこる。ポジティブに考えられる患者やネガティブに考えてしまう患者で満足度は変化する。しかし、ネガティブに考えてしまう患者でも、医療従事者が前向きに、積極的に、親身に接することで、考え方がポジティブに変化する可能性があるのだと感じた。そして、患者自身が頑張れるように声がけし、はげます事が看護師の重要な役割だと再認識できた。また、「人のために何かをしてあげたい」と思うなら、まず自分の事をしっかり行うことが大事だと理解できた。今の私にできる事は、看護師の免許をとるという事だけではなく、患者に最適な援助をするため、技術、知識をしっかり学ぶ事だと感じた。その、技術、知識を役立てるためには、正確な情報が必要であり、情報を見極める力、「心の知らせ」に気づける力、情報を掘りおこす力が大切である。患者や患者家族によりそい、患者との信頼関係を築けるように目配り、気配り、心配りができるように頑張っていきたい。

- ・今回の講義で特に3つの視点の一つ目が重要であると感じた。医療者と患者の治療への価値感や満足感はかなり差があると思っているからであるこれから臨床の場にていくうえで患者が治療に満足するかということが重要になっていくと思う。その時にどこで満足感に差がでるかを知っておいて、それぞれの患者に適した援助を実施することにつながると思った。
- ・病気には治る病気もあれば、治らない病気もあることが分かった。看護師が実行できるようになるためには、知識量だけだけでなく、やり抜く力や、意志力、手を抜かないこと、またやらないといけなことは周りを気にせずすることが大切だと分かった。決意と覚悟がうすいと達成できないということを学んだため、看護師になったら責任感や覚悟ともしっかりもって行動していきたい。
- ・今回の岸本先生のお話を聞いて、患者さんの病気を治すために大事なことは、患者さんの治そうとする気持ちだけでなく、医療者が患者さんにきちんと説明することや、正しい知識を持って治療を行うなど医療者側も患者さんと共通の意識を持つことが大切であると学びました。そしてそれをする事で、結果がどうであれ、患者さんときちんと向き合うことで、それが患者さんの納得になり医療者に対しての信頼につながると学び私も、患者さんに信頼してもらえる看護師になるために学生のうちに様々な技術や知識を習得し、正しい情報を見極める力を養いたいと思いました。そして、真心の込もった看護をするには、自分のことがしっかり整っていなければいけないと今回改めて学んだので、学生のうちに自分の体調管理や、計画を立てて行動するなどの習慣を身につけて、今後の学生生活を送りたいと思います。岸本先生のお話を聞いて基本が大切だと今までも理解はしていましたが、改めて基本に忠実に行動して、あたりまえをつみ重ねて、自分は看護のプロフェッショナルだと自信を持って言えるように行動をしていきたいと思いました。
- ・医療者として仕事の質を向上させるために大切な「3つの視点」としてまず1つ目「医療者」と「患者」の間でなぜ治療の効果の満足度に差がでるのかについて、医療者は客観的に評価していて、患者は気持ち次第で主観的に評価している。医療というのは、誰か一人が頑張れば良いというものではないこと、満足度ではなく何を指すか、情報を受け取る際は気をつけ、全部知った上で判断することが大切だと学んだ。自信を持って物事に望むには、準備の段階で不安を減らし、行動する時は楽観的に行動することで自信に繋がる。また、責任をもち、患者に向き合うこと、患者からの学びをフィードバックすることが大切である。実行できるようになるためには知識量だけでなく、やり抜く力、やるかやらないか、成功するまでやり続けること、また、手を抜かずにやらないといけなことは周りを見ずにする。注意と覚悟が薄いと達成できないということを改めて理解した。結果がでなくても、ポイントで緩めてはいけな、時間がないのではないということ、ポイントは逃がしてはいけな、物事をやり遂げなければいけないという覚悟が必要ということを学んだ。「夢は逃げない、逃げるのは自分」という言葉が心に残った。
- ・岸本先生の話聞いて看護師としての役割や患者と関わる上での大切さを知りました。医療者と患者の間での満足度によってかなり違っていると話されていてなるほどと思いました。医療者が満足していても患者側が満足していなければ上手くいったとはいえないと思い、両者が満足し納得できる方

向へ持っていくことが大切だと感じた。また大切な3つの視点として、「目配り」「気配り」「心配り」といっていて、僕も看護師にとってとても必要なことと思っており、これを心がけておくことで患者の少しの変化にも気がつくことができると思いました。またこれが実際にできるように学生であるうちに実習などの場面で活用できるようにしていきたいです。また私はとても勉強が苦手についていけないのですが、時間がないとよく思ってしまうのですが、岸本先生が「時間がない」＝「やる気がない」とおっしゃっていてその通りだと思いました。時間がないは言い訳に過ぎないということで時間がないなら毎日30分でも復習するなど方法がいくらでもあるなかやらないのは単にやる気がないということに気がつきました。これからは復習を毎日行うようにして、言い訳しないようにして、強い意志を持って看護師を目指したいと思います。今回は貴重なお話をありがとうございました。

- ・今回、入学記念講演に参加して、医療者を患者との間で価値観の違いがあることを学びました。医療者側が満足のいった治療を行っていても患者側が満足のいない治療であれば意味がないと思うので、患者とは十分に話し合って相手の意見を尊重した治療を行う必要があると思いました。また患者や他の医療従事者に情報を伝える時は、自分の考えを含めず分からない部分は明白にしてから間違いのないように伝えなければいけない事と、情報を受け取る際も自己解釈せず、言われた事をそのまま抜けなく情報を受け取る必要があると思いました。疾患や病気を治すには医療従事者のみならず患者も努力や注意が必要となってくることを学びました。看護師が薬の飲み方を指導しても、医師がその疾患に合った薬を処方しても、患者がそれを決まった時間に決まった方法で継続して飲まなければ回復への道も遠くなってしまうので、患者にもきちんとその事を説明し協力してもらう必要があると思いました。
- ・3つの視点の1つ目は患者と医療者の治療に対する満足度の差についてでした。患者は完治を求めため自分たちに真摯に向きあってくれたということが重要であり、しっかりと心のチャンネルをあわせ、接する事が大事であることを学んだ。2つ目はすべての疾患に対して常在戦場の心持ちでいること。 Good Doctor, Good Nurse. Good Patient. 3つのGOODがそろとうと良い。しかし、基本というのは大事であるが難しいということ学んだ。3つ目は情報を提供する側と受けとる側で気をつけること。情報を正しく分析することが大事であり、そのためには自分にしっかり能力をつけることが重要である。自分のことができない人が他人のために何かすることはできないからである。全ての話を聞いて医療に対する責任感と覚悟を身につけて今後の成長につなげていきたいと感じました。
- ・正の集中、負の集中という言葉があり、正の集中とは悩みを笑い飛ばせるポジティブな人のことで負の集中とは悩みを次々に連発するネガティブな人を言い、人はそれぞれ考えが違い、思いも異なるので、1人1人としてしっかり向き合っていくことが大切だと改めて思いました。常在戦場—1人にはそれぞれの戦いの場があり、グッドドクター・グッドナース、そして、良い患者がそろとうと、よりよい治療効果が得られ、基本に忠実であることが大切であるということ学ばれました。情報を「提供する側」と「受けとる側」の意識を高くもつこと、情報は全部知った上で判断することが大

切だと思いました。「受けとる側」は、元々の事実だけを分析し、隠れている情報を取ることで、また積極的に行動することに気をつける必要があると学びました。想定できる状況にしておく、1つ1つの兆候に気づく、そのためには、見えない情報まで掘り起こすことが仕事で大切だと思いました。「社会人」として進歩するには、まずささいなことでも良い自信を持つこと、そして、勇気を出して1つずつ増やしていくことだと知り、私も病院で働くようになったら、この言葉をしっかり胸にきざみ、進歩していきたいと思いました。また自信を持ってのぞむには、準備の段階でできるだけ不安を消す、楽観的にのぞめるようにすることが大切だと学びました。知識を持つことは、とても重要で必要なことでもあるが、実行するのは知識ではなく、「意思力」とあるということから忘れずに頑張っていきたいと思います。

- ・今回の話を聞いてすごく医療者と患者の考えについて理解を深めることができました。まず最初に医療者と患者では治療効果に対する満足度に差が生じるということでした。それはなぜかというと、医療者は治療効果を客観的に評価し、患者は、主観的に評価しているからでした。患者にはA.正の集中とB.負の集中に分かれます。私分かりやすかったとらえ方は、Aはポジティブな患者、Bはネガティブな患者でした。患者の中にもそれぞれ大きくとられ方が違うということが分かりました。Good ドクター、Good ナース、Good patient がそろうことが大切だと分かりました。それと人間は便利すぎると退化するということを知りすごく納得しました。それともう1つすごく共感したことは、自分のことをできない人は、他人のことができないという言葉でした。
- ・医療者は、高い治療効果を上げるには、「満足度」ではなく、何を目標せばよいのかを考えてやっていくことだとわかった。医療技術もどんどん進歩していったら、機械に頼りすぎると人間の能力は退化してしまうので、機械に頼りすぎず自分の技術を向上させていくのも大事だと思う。仕事をししていく上で基本が本当に大事だとわかった。基本に忠実であることが最も大切で一番難しく基本技術の差は、診療に大きな影響を与えるので、基本をしっかりとつくっていけるようにする。看護師は、患者の見えない情報までほりおこして、種々の徴候に気づき、寄り添って励ませるようにする。
- ・今回の講義を聞いて学ぶことが出来たことは、医療従事者として仕事の質を向上させるために大切な3つの視点を学ぶことが出来た。1つ目は、「医療者」と「患者」との間で何故治療効果の差が出てしまうのか。2つ目は、すべての疾患に対し高い治療をすること。3つ目が情報を提供する側を受け取る側が常に気をつけることが大切だと学ぶことが出来た。友達関係と信頼関係は全く比例していないことや、正の集中がポジティブであること。また負の集中がネガティブであることも学ぶことが出来た。医療従事者の理想としては広く、薄くではなく、広く、濃くであることが大切。他にも主観を挟まないことや、見えない情報までを掘り起こさないことが、受け取る側が気を付けることである。良好な患者、医師の関係を築くことが医療従事者として最も大切なことであると学ぶことが出来た。看護師になってからも医療従事者の理想の広く、濃くを大事にしながら、また他にも今回学んだことを活用していきたいと思いました。

- ・医療者として仕事の質を向上させるために大切な「3つの視点」として学んだことの1つ目は、「医療者」と「患者」の関係性です。この関係性が良好でなければ、医療者と患者間でのコミュニケーションをとるのが難しくなり、双方でとらえ方が異なり、意見が食い違ふことが多くなり治る病気が治りにくくなるのかなと思いました。2つ目は「3つの good」でそれぞれ「good doctor (よい医者)」「good nurse(よい看護師)」「good patient (より患者)」だと学びました。よい患者とは、自分自身でセルフケアができる人のことだと学びました。セルフケアができていないと、医師がどれだけよい治療をしても、病気を悪化させてしまうということも学び、何事も人まかせではいけないと思いました。3つ目は情報を受け身で受け取るのではなく、積極的に自らが動き取りに行くことが大切だと学びました。患者の情報だけでなく、日常における様々な情報を主観的にとるのではなく、客観的にとらえるのが大切だと学びました。この3つの視点はこれからの実習に活かしていきたいと思いました。いつか役立つ「3つのお話」では、責任感をもって行動する、医療者のすべての人が「名(プロフェッショナル)」を名乗る、身体を作って患者と接するということを学びました。責任感をもつには、不安を消していき、自信をつけることが大切だとわかりました。
- ・医療者として仕事の質を向上させるために大切な「3つの視点」について講演を聞きました。3つの視点を考える時に、AさんとBさんを例に挙げて患者の満足度について聞きました。Aさんは、何年も治療について悩んでいましたが、少しずつ良くなり良い方向に向かっていて満足していました。Bさんは、何年も悩んでいて少し良くなっても喜ぶことができずに、悪い方に考えてしまっているところがありました。患者には、生活があり、人によって満足度も違ってくるということがわかりました。患者の気持ちが前向きでなく、満足度も下がっていると治療に前向きになれていなく満足度を感じてもらえないと思いました。医師・看護師・患者の役割には全身の状態や寄り添うことが大切でした。医の役割の方が大きくなってしまいが、良い状態を保つことができるようになっていました。情報の提供・意識を持つことが大切でした。情報では、隠れている状態があるので、しっかり情報を取ることが必要になってきていました。情報を元にイメージをし、体重、服薬品などの患者の情報を取りにいかないといけないことがわかりました。人間学は、目配り、気配り、心配りが大事でした。患者と同じ方向に向かなければいけないことがわかりました。患者と関わっていく上で、気配り、目配り、心配りで状態などに気を掛けることが大事になってくるということがわかりました。患者が満足を感じていないと気持ちが前向きになれないと思うので治療に前向きになってもらえるように考えることが大切でした。
- ・満足度を目標にしたときに、医師と患者での満足度の違いが出てしまうとういうことの理由として、医師は客観的、患者は主観的に考えているためである、ということがあまり考えたことはなかったけれど、確かにあると思いました。結果が少し良くなったからといって、患者が満足して喜んでくれるとは限らないため、まずは、患者 心情を考え、理解し、どのように対応するかを人によって考えなければならないと感じました。看護師を目指す上で、患者やご家族に寄り添い励ますために、知識を身につけ、経験を多く積んでいきたいと思ひます。
- ・あたり前なことではあるけれど、患者にとって治療に対する満足度が大きく違ふと良く分かった。

例えば、できるだけ完治に近づけるように治療を行った結果、9割治すことができたとしても、その9割に喜ぶ患者と残りの1割を気にする患者がいるということである。そのため、1人1人の患者の満足度から今後の治療を考えていくことがとても大切だと改めて感じた。また医療従事者の患者への対応の仕方にも注意が必要だと感じた。事例の1つで皮膚の疾病を患った小学生の話聞いた。患者の母親が「医師が何もしてくれない、何も話してくれない」と不安で泣いていたということだった。そこで他の医師が親身に寄り添った結果、安心したように喜んでいたということであった。この事例から淡々と説明するだけでなく、対象を安心させる力がとても大切であると学ぶことができた。

- ・ただ知識をつけることだけに取り組むのではなく、その知識をつけた状態から「行動」することが、自信を付けることにつながることを学んだ。
- ・「欲しいものは時間だけど、むだに使っているのも時間」という言葉に感銘を受けた。一度自分の時間の使い方を見直さなければならないと強く感じた。
- ・感じたまま、聞いたまま、覚えたまま、見たままにするのではなく、そこから自分なりに考えることが大切であるということ学びました
- ・「正しい」で考えるのではなく、自分の考えを見つけることが大切だと気がつきました。
- ・今回の入学記念講演を聞いて、大切なことを再確認することができました。「3つの視点」では、医療者と患者との治療の満足度の差に関して、自分達がどれだけ真摯な姿勢で誠意をもって向き合うかによって患者を満足にさせることができるかを自分自身見落していた箇所があったため再確認できました。情報を提供する側と受け取る側が常に気をつけていることに関して、見えない情報まで掘り起こすということを改めて学ぶことができました。また、「3つの視点」の中で事例を挙げてその人の治療方法や治療の経過を詳しくそして、わかりやすく教えて頂きありがとうございました。また、いつかきっと役に立つ「3つのお話」では、自分の立場に気が付く「目配り」、相手の立場にとって気が付く「気配り」あたり前のことこそ真摯に向き合う「心配り」が大切だということを改めて確認することができました。この3つのことを忘れず、今後の学業や将来看護師になった時も行えるようにしていきたいと感じました。
- ・この講演により、医療者と仕事の質を向上させるためには、まず、医療者と患者の治療への満足の差があるのだということ意識して行動する必要があると感じました。そのためには、客観的に観察して得た情報だけではなく、患者の主観や患者が疾病に対する心の持ちようを理解し、患者の心のチャンネルに合わせて看護をしていかなければならないと学びました。また、患者が求めている満足(完治)が難しい場合には、患者の満足に対して、誠意を持って向きあうことが大切であり、誠意を持って行動するためには多くの知識と技術を身につけることが大切であり、これらを養うには何事も基本に忠実であることか求められていると改めて思いました。そして、自信を持って行動を

起こすには責任感を持って今の自分と向きあって修業をすることが大事であり、日々の勉学ではこのことを頭において学んでいきたいと思いました。

- ・入学記念講演の話聞き、一番大切に響いたのは、"何か行動を起こす前にしっかり確認、勉強を行なって不安を消しておくのが大事、だということです。普段、勉強など準備不足の後にテストに臨んだりして不安だらけで終わってしまうことが多いので、"不安はやっていない人が持つ感情、という言葉が刺さり、これからは事前の準備を心がけようと感じた。
- ・患者が感じる治療の満足度を上げるためには、良き信頼関係を築くことが重要だということを学ぶことができました。良き信頼関係を築くためにも自分が看護師として役割がまっとうできているかをいつでも考え、その役割に責任感を持つことが必要だと感じました。この講義で学んだことを糧に今後の学生生活だけでなく、就職後も常に考え続けられる看護師になるために頑張ります。
- ・今日の授業で医療者として仕事の質を向上させるために大切な「3つの視点」&いつかきつと役に立つ「3つのお話」を先生から講義を受けて学んだことは、1つ目に患者が病院に治療を受けに来て、自分から見た満足度と患者から見た満足度には差がでていて、自分からみた視点を客観的に、患者から見た視点を主観的に見て評価することが大切だと学び、2つの視点が一致することは難しいのだとわかった。また、正の集中(ポジティブ)、負の集中(ネガティブ)の区別のしかたがあって、負の集中の患者にどれだけ向きあっていくことの大切さも学んだ。常在戦場を医療にあてはめ、患者、看護師、医師3つの Good がそろえば良い治療を行うことができるが、3つそろえることは難しいのだと改めて感じた。2つ目に、情報の考えと立場。患者に情報を伝えるためには、本人がそれを理解していけない。また、情報収集する際は間違っただけの情報にだまされない。情報が不十分な場合は、どんな経路で発症したか想定できそうなことを詳しく知らべて、見えない情報まで掘り起こして、濃くすることが大事(1つ1つの症候に気付く)だと学びました。3つ目に、進歩するためには、広く濃を忠に、自分の軸は曲げずにもう片方で色々さぐりながらできることを増やしていく。できなかった場合は、軸に戻って、また色々広げていく力を身につけることの大切さを学びました。今日の授業で、自分が成長するために、色々なことを学び、1つ1つの言葉が自分にとって心に響いたので、これをわすれずにこれから看護学生として自覚をしっかり持ち、頑張っていきたいです。
- ・今回の講演をきいて、3つの視点を学びました。医療者と患者の満足度の差については、医療者は、検査データなどの客観的評価だが、患者は、気持ちなどの主観的評価なため、その人の気持ちによって満足度が変化することが分かった。そのため、患者が負の集中である場合、患者が少しでも満足するように、疾患や治療についての説明を行い、満足度を上げていく必要がある。また、君が代はラブレターという歌詞であることに驚きました。患者を笑顔にするためには、まず自分自身のことのできないといけないことを学びました。すぐくためになったので、看護学生として、あたりまえのことをあたりまえ以上にできるように頑張りたいです。

- ・今日は、入学記念講演があり、医療者として仕事の質を向上させるために大切な「3つの視点」といつかきっと役に立つ「3つのお話」を聞いた。まず、なぜ医療者と患者との間で治療効果に対する満足度に差が生じてしまうのかということについて、医療者は客観的であることに対し、患者は主観的であることが分かった。また、患者自身の気持ち次第であり、心のチャンネルがある。抜けだせない人がいることが分かった。全ての病気が治るわけではないので、満足度に差が産まれることを知った。医療は、誰か一人が頑張れば良いのではなく、チーム医療であり、基本に忠実であることが必要だと分かった。また、情報には、情報を提供する側と受け取る側があり、分析する能力や判断する力、情報を知った上で幅広く積極的に行動することが大切であると知った。実行できるようになるためには知識量だけでなくやり抜く力、意志力が必要で、決意と覚悟が薄いと達成できない。自信をもつには不安を一つずつ消す準備と行動が必要で、集中力を高めるためには余事を取り除くことが大切と分かった。成功するまでは1つの道を進み、逃げるのは夢ではなく自分であるという言葉に感心を受けた。目配り、気配り、心配りに気を付け、よく聞き、よく見ることが大切だと知った。

### [3 学年]

- ・医療者が満足していても患者が満足していないことがあるか、その人に合った優先度は何なのか考えることが大切だと思った。治る病気ばかりじゃないかた、それを踏まえた上で病態・治療・疾患について患者がその家族にインフォームド・コンセントをとり、寄りそった看護をすることが大事だと学んだ。情報を一部だけあいまいなまま患者に説明すると、病気でも不安になっているのにもっと不安を与えてしまう。不十分な情報収集するのではなく、疾患について合併症や基準値を把握しておいて、積極的に情報収集する姿勢が大切である。全部情報収集した上で、まとめて患者に分かりやすく説明することが安心を与えることができる看護につながると思った。友だちみたいに慣れ慣れしく患者と接するのは決して信頼されているわけではないし、看護師と患者でよい関係とはいえないからお互い信頼し合っている関係づくりが大切ということ学んだ。(3つのお話) この先不安なことはいっぱいあるけど責任をもって逃げない。そのために勉強をして知識を得た上で患者と接することが大事。自分がやるべきことを全部果たしてよそみをしないですすんでいくことが大事ということ学んだ。暗記するのではなくイメージして考えることが大切であり、患者の言葉だけで情報収集するのではなく、自分で見て、何かあったのか気づけるような看護師になろうと思った。
- ・私は講演をきいて、医療者と患者の間では満足度の違いが生じると学んだ。医療者は客観的な視点から物事を捉えてしまう。患者は主観的であることからそこで差が生まれると学んだ。情報を収集する時は自ら行動し収集しに行くという気持ちで行くこと。主観的情報、隠されている情報見つけ出すことが大事である。そのためには信頼関係を築き相手とのコミュニケーションをとることが大事だと考える。目で観察することも大事だが相手の思いなどは関わりを通して収集しなければ分からない。ただし、友情関係と信頼関係は全く違う。患者に対して慣れ慣れしく接するのは信頼関係を築いているとはいえないと学んだ。仲が深まりこちらが心を開いても、相手の心が開いているとは限らない。自分ばかり話すのではなく、相手の話、思いをよく聞く「傾聴」することが大切である。言葉だけで

なく、表情やしぐさからも観察し、少しの変化にも気づけることが信頼関係を築くことにつながるのだと講演を聞き学ぶことができた。

- ・講演会を聞いて、仕事の質の向上の3つの視点を学びました。  
1つめとして患者と医療者の間で治療効果に対する満足度に差があるのはなぜなのかというものでした。講演の中では医者が客観的にみているのに対して患者側は主観的にみているためであり、そのために差があると学びました。医者の満足度が低くてもよいが患者の満足度が低かったり、お互いの満足度が低いと、負の集中がおきることも学びました。2つ目として、提供する側と受けとる側で気をつけることは何かを学びました。どちらかの意識が低かったり、やる気がなかったりすると良い医療は提供できないということを様々な実際の資料などを見せてもらいながら学ぶことができました。3つ目としては良好な患者と医師の関係が大切だということでした。このような関係になるためには互いの信頼関係がないといけないことを学びました。信頼がなければ良い医療を提供したり受け取ったりはできないと思いました。
- ・医療者と患者との間における治療対策に対する満足度の差が生じてしまうのは客観的データや主観にもよるが、医療者がどれだけしんしに向き合って治療に向き合ってくれたかが重要であると理解する事ができました。患者の考え方や性格にもよるが、看護師として患者に寄り添い、励ます事を基本に、患者の見えない部分の情報を収集する事が大切だと学びました。見えない部分にも目を向け、患者の事を考え、看護する中で自分自身の看護師としての知識や力をつけていきたいと思いました。又、表情やしぐさなどで患者の本当の気持ちに気付ける看護師になりたいと思います。私自身、子供もいる中での挑戦中で、時間に追われる事が多いのですが、時間が無いと決めつけず、その中で工夫と努力で、これからの実習と国試対策を頑張ろうと思いました。
- ・岸本先生の講演をきいて、医療者と患者の満足度に差が生じた時、患者の主観的な思いを傾聴し、患者の求める事（病態、医学的知識）を提供することが大切だと学んだ。そうすることで患者の満足度を得ることができ、信頼関係の構築につながることを知った。  
また常在戦場という言葉があり、常に人は戦いの場があるという場面に医療でたとえ、ドクター、ナース、患者、この3つがそろうことが必要となる。ナースの役割としては患者へのはげましや寄り添いが大切となることが分かった。看護師は人のために努める仕事であるが自利利他の精神のように自分の事ができていない人が他人のために何事もできるはずがないということを知った。この言葉をきいて、私もその通りだと思った。まずは自分はできているのか、自分自身の振り返りというものが大切だと思うことができた。  
看護師にとって必要なこととして目配り、気配り、心配りが大切であり、当たり前のことを当たり前に行えるということが大切であることを知れた。またなぜ口はひとつなのに、目と耳は2つなのか、それはよくきくこと、よくみることが必要で、重要なメッセージは相手の口から出てくるもの以外などの表情やしぐさを見て気づいてあげられるかが重要となる。
- ・医療の質は患者による主観的評価と医療者による客観的評価によって決定されるということに納得し

た。患者の評価が最も重要なため、患者、医療者とともに満足した治療をできれば◎、医療者が不満でも患者が満足していれば○、医療者が満足していても患者が不満であれば△、患者と医療者とともに満足していなければ×という医療のあり方を表で示して説明して下さったので、とても分かりやすく理解することができた。また満足感を向上させるために最初は良い医師、次に良い看護師、その次に良い患者が必要だということが理解できた。看護学生である身として治療をポジティブに捉えたり、指示どおりに治療を行ったり、通院できるような良い患者にしていくため、患者に寄り添い思いを聞きながら指導していける看護師を目指していきたいと思った。

また、実習や臨床で働く際にも情報収集は患者と関わる上で基本となる。その際は、与えられた情報だけでなく自分から情報をとりにいくことが大切で、正しい情報、隠された情報をとりにいく姿勢が必要だと分かった。看護学生の間にも患者を受け持ったときは受け持ち患者の情報をとりにいく姿勢を大切に実習に臨みたいと思う。そのために、傾聴することはもちろん発言だけに注意するのではなく目や耳を使って、話さないことにも気づけるように努め、見えない情報も掘りおこしていくことが必要だと思った。

講演の中で、誰もが自分のことを「名看護師です」といえるようにとおっしゃっていた。今はまだ医療に対しての知識は十分でない上、関わった患者も少ないためこのまま看護師になったとしても自己のことを名看護師といえる自身はないが、これから目くばり気くばり心くばりをできるようになり、自分で名看護師と名のれることを目指していきたいと思う。

- ・治療を適切に進めるためには3つの Good doctor、Good Nurse、Good patient がそろっている事が大切だと学びました。また病状が改善されても喜びを見せない患者や治療への意欲が低いと治療の意欲があり、治療に前向きである人の方が良い治療を受けられる事が分かった。  
人の集中にはそれをじゃまする要因があり、それをとりのぞく事で集中できる事も学びました。
- ・記念講演を聞いてまず医療者の満足度と患者の満足度には大きな差や違いがあることで、患者の満足度が目指すことができない場合、看護師や医師たちがその疾患について真摯に向き合う姿を見ることで納得につながるというのを聞き、これから看護をしていくにあたり、とても重要な姿勢であることを感じました。次に治療において看護師や医師、患者にはそれぞれ役割があり、良い看護師は患者に寄り添い、適切な処置や指導を行うものと聞いて、患者に完全に寄り添うことは難しいが、自ら足を運んで患者のことを知ることが寄り添うことに近づき、信頼関係を築くことにつながると考えます。私は「常在戦場」という言葉を聞いて常に緊張感を持って行うことで基本の大切さを理解でき、基本ができていることで、いざという時にも対処ができると納得しこれから看護を行う時は1つ1つ理解して臨もうと思いました。
- ・今回の公演で最も心に残っているのは患者の抱える問題に対して親身になって関わる事が大切という事です。抱えている問題が完全に解決していなくても、問題に対しての情報を詳しく提供し、問題解決に挑むことで満足感が生まれることを知り、看護師になった際には正しい知識、技術を身につけて、患者に寄り添い看護を提供したいです。その他に「心配り」の話の際のあたり前のことをあたり前以上にという言葉ががとても心に響きました。小さなことでもコツコツと継続して取り組むことで

着実に力がつくと考えるので、この言葉を大切に日々の生活を過ごしたいです。

- ・自分たちが患者に行う看護も、患者と自分たちの満足度に違いがあることが分かった。違いがある理由として、自分たちは客観的な情報から看護の評価を行うが、利用者は主観的な情報(自分がその看護を受けてみてどう思ったかなど)から看護の満足度を評価する。そのため、看護に対し1つでも不安があったり、その看護が患者自身が必要としていなかった場合に満足度に違いが出ると学ぶことができた。そのため、看護を行う際は患者が必要としているのか、患者の不安を軽減できる看護であるのかを考えてから行うようにしていこうと考えた。また、「3つのお話」で不安から逃げずに自分と向き合っていくことが大切であると学んだ。自分と向き合うことで不安が自信に変わっていくことを学んだ。また、時間が無いのを言い訳にするのはやる気がないということであるため、タイミングを逃すことなるやるべきときは最後までやるという覚悟を持って行っていきたいと考えた。
- ・講演をきき、患者に提供する事や患者の求める事の大切さを学び、それを行う事により、信頼関係の構築につながる事とわかった。またナースの役割について知り、はげましや寄り添いの必要性についても知る事ができた。ナースは人の為に努めるが自分の事ができない人が他人について何もできるわけがない事も知れた。
- ・3年になると国試まで実習があるので積極的に患者の検査に参加し、コミュニケーションをとり、情報収集し、正しい知識を身につけられるように実習にはげんでいきたいです。また、その得た知識から自分の得意なことを見つけ、自身を持って看護ができるようにし、患者に満足してもらえるようにしていきたいです。
- ・医療者と患者へ満足度に違いがあった場合には、患者の思いの傾聴や患者が必要とする援助を行うことが大切である。常在戦場という言葉は常に人が戦いの場があるという場面を医療での例えである。医師には医師の役割があり看護師には看護師の役割があり、患者には患者の役割がありそれぞれ自分の役割を全うすることで治療が上手くいくことを学んだ。良い看護師になるには声をかけたり、励ましの言葉をかけたり、目配り気配りができることが大切であると学んだ。私達も看護師を目指して勉強や実習を行っているのでこれからの学生生活でも活かせるようにしていきたいと思った。援助するにあたって、良い患者はセルフケアコントロールができるのが大事であり、基本の技術がないと何もできないため基本の技術が大切であることを学んだ。
- ・私が今回入学記念講演を受けて、ウサギがカメに負けた理由で、ウサギの方が能力があるのに対して、カメはよそ見をせずに頑張っていたことで、ウサギに勝ったというお話が一番印象に残っています。私たち看護学生はみんな国家試験合格を目指して頑張っているのです、私もカメのようによそ見せずコツコツと国家試験に向けて勉強を頑張りたいと思いました。また、「基本に忠実であることが最も大切だが一番難しい」という言葉もよく印象に残っています。学生の間は基本のことを学ぶことが多いので、学生の間基本をしっかりと学んでおきたいと思いました。他にも、自信をもつイメージは不安を減らしていくことで、その不安を消すために一番力を発揮して

くれるものは、今の自分に向き合うことが大切であるということを知りました。私は3学年であり、実習ばかりになるが、実習中に自分にしっかりと向き合い、自信のある看護師をめざしたいと思いました。状態が好転しない人の共通点で、「いそがしくて手がまわらなかった」などのいいわけをしていて、決意や覚悟がゆるいというのは、今の自分に近いと感じたためいいわけばかりせず、いそがしくても手を回すようにしようと思いました。

- ・入学記念講演を聞いて、同じ病気を持っていても患者の満足度は違うということを知った。私は患者の病気が完治したら絶対に満足度は高いと思っていた。だが、Aの患者は皮膚の病気が完治した時「細かいには気にならないし、治って良かった」と発言していたが、Bの患者は「完治しないのか、毎日注射しないといけないのか」との発言があった。

Aは正の集中というポジティブ思考であり、Bは負の集中というネガティブな思考であったため、1人1人患者の完治という認識は違うということを知った。

- ・患者と医療者との間で満足度の差があることが現実で、その差をうめることは非常に難しいことだと分かった。私は自分に自信がなかなか持つことができないので、なぜ不安になるのか、どうしたら減らすことができるのかを知ることができました。「行動する前に不安を1つずつ減らし消し準備する、楽観的な精神状態」ということを学ぶことができ、責任感から逃げず、向き合うべきだと分かりました。また、視野を広くもち、気づいてあげられる看護師になること、魅力は外見ではなくその人の内面が重要です。医療者として患者が「この人(看護師)にまかせても良い」と思ってもらえるようになりたいです。

- ・私は構義をきいて看護師として、看護学生として必要なことを学ばせて頂きました。1つ目の話、医療者と患者さんの満足度になぜ差がでるのか。私も構義を受けて、なぜだろうと最初に思いました。講義をきいていく上で医療者から一方通行の説明を行うだけでは満足しないんだと学びました。3つ目の話の「情報」を提供するについて、現在はインフォームド・コンセントが重視されている。また治療はコンプライアンスであり患者自身でセルフケアを行っている。そのため、患者さんが納得するように、たくさんの情報を提供し治療を行なってもらう必要があるため看護師や医源従事者は情報の提供をきちんとしないといけないと思いました。与えられた情報のみではなく自ら情報をとりに行く、その準備運動としてまずは勉強し想像しておくことが大切だと教わった。友達関係と信頼関係はちがう。信頼関係があり、始めて医療に血が通うと構義から学ばせて頂き「確かにそうだな」と思いました。一つ、誰にも負けない軸をつくり、今後、技術の幅を広げていきたいと考えた。軸をつくり、できるではなく、質をどんどんどんどん高めるという方向を目指すことが大切であると学びました。自信ともつために準備が大切で不安をとり除く必要がある。国試当日に自信をもてるように、しっかり準備をし、不安をとり除いていく必要があると思いました。

自分がしないといけない事を周りとは比べずよそ見をしないが大切であると学びました。来年の国家試験に向けて不安をとり除き、周りとは比べすぎないようにし看護師として働けた時に構義で教わったことを生かして頑張りたいと思いました。ありがとうございました。

- ・実習で患者さんを援助していく上で、医療従事者と患者の満足度の違いをしっかりと考えることができ  
ていなかったが、講演を通して改めて満足度の違いを考えることができた。援助者は検査データなど  
の客観的データから満足度を得ることが多いが、患者自身は、入院する前の状態に戻るなどその  
人の気持ち次第であるため、援助者は患者の身体面、精神面・社会面を 患者の満足度を十分に観察し  
たり、又コミュニケーションを取ることで、患者の満足度を高めるよう関わっていくことが大切であ  
ると感じた。
- ・私は今日の公演を聞いて、3つの視点から、働いた時にとても役立つことを学べたと思いました。  
働くこと以外にも、3学年は実習がほとんどのため、今日の公演を生かしたいと思いました。  
私は何か一つ失敗したりすると、すぐに落ち込み、立ち直るまでとても時間がかかるため、1つでも  
自分の自信につながるように、努力をしたいと思いました。
- ・今回の講演で、医療者として仕事の質を向上させる「3つの視点」と役に立つ「3つのお話」につい  
て学ぶことができました。3つの視点ではまず一つ目に医療者と患者の満足度について私達医療者  
は、客観的に評価するのに対し、患者は主観的に評価していること。患者の中には解決していない問  
題があればその問題に対して悩む人がいるので、その悩みに対して患者は言い出せなかったりするの  
で、こちら側が観察して気づいてあげることが大切であること。2つ目は 医師、看護師、患者にはそ  
れぞれ役割があり、何が必要なのか考えること。3つ目は、情報を理解していなければ患者に間違っ  
た情報を伝えてしまうので、情報は全て把握しておき、正しく患者に伝えることが大切であることを  
学びました。また役に立つ話では、一つは不安を消すために今の自分に対して逃げるのではなく向き  
合うこと。二つ目は集中力を高めるには余事を切り捨てること。集中力はあまり長くは続かないけ  
ど、やる時は、計画を立ててその時にやるようにしていきます。三つ目は患者と接する時はよく傾聴  
して患者をよく観察することが大切であることを学びました。これからまた実習が始まるので、今回  
の講演であったように患者が本当に満足しているのか考えて、患者の訴えをよく傾聴し、表情等も観  
察してアセスメントにつなげられるように頑張っていこうと思います。
- ・講演をきいて、患者さんと医療従事者に、満足度に差が生じてても、患者さんにできるだけ満足しても  
らえる医療の提供が必要だと思った。  
患者さんが、口数が少なければ全身状態をみて観察を行うことが必要であり、患者さんと関わるうえ  
で、信頼関係を築くことは大切だが、慣れで関わることは違うことも学んだ。 いくつか役に立つお話  
では、相手の立場になって考えることをきき、自分では良いと思っても、相手はどう思ってい  
るか、わからないために、誰と接する時でも、相手の立場になって考え行動していこうと思った。
- ・満足度は、医療者と患者では違うことがあるため、患者が治療に対しての想いを理解した上で、治療  
を行っていく必要がある。また、満足度は、その人の性格によっても左右されていることを学んだ。  
患者にとって、どれだけ、誠意を持って、関わってもらえたかが重要であることを学んだ。  
また、自分の心身をととのえなければ、よい看護ができないことを学んだ。 情報は、正確に幅広く  
情報を取ることが大切であり、また受け身ではなく、積極的に情報を取り、主観は入れず、客観的に

分析することが大切である。良好な患者－看護師関係について、信頼関係を築くことが重要であることを学んだ。また、良好な関係により、患者からの学びが得られ、自分の成長にもつながることを学んだ。患者からのメッセージは口から発せられるものだけでなく、しぐさなどからあるため、非言語的メッセージを見逃さないことが大切である。

・医療者と患者との間で治療効果に対しての満足度に差があることを学んだ。治療に対して説明を行うと、前向きになる患者もいれば、治療しても、いつまで続けたら良いのかや、面倒臭いなど満足が得られていない患者もいるので、自分達と患者の間で満足度に差が生じてしまう。それは、客観的に満足度を見ているが主観的でみているかで、差が生じているのだと考えられていることを知ることができた。病気を説明するときに、患者が納得できるように行うことで、治療に対して前向きになったり、満足度を得ることにつながるのだと思った。また、患者が求めていることは何なのか考えて、そのニーズに応えられるように援助することが大切だと思った。大半の仕事は基本的に忠実な手腕で決まるが、忠実であることが一番難しい。また看護技術の差が大きな影響を与えることを知ることができた。情報を正しく提供するためには、自分がその情報をしっかり理解しておく必要があり、医療の場でも、まず自分が伝える情報を正しく理解して伝えることが大切であると学んだ。情報は全部しつた上で正しい情報を提供する必要がある。また、情報は受け取るだけではなく、自分で情報をとることが大切であると学んだ。間違った情報を取り入れて、おどらされないよう、正しい情報と間違った情報を区別することが必要であることを知った。実習をする上で情報収集を積極的に行うことが大切だが、講演を聞いて、情報収集することの大切さを学ぶことができた。友達関係であることは、信頼があることにはならなくて、仕事をする上でも、友達関係ではなく信頼関係を築くことが大切であると学んだ。講演していただきありがとうございました。

・医療者と患者の治療法の満足度が異なることが生じ、それは4つのパターンがあり、相互に満足することがとても良いが、患者が満足できず医療者が満足するなど、双方の満足度が異なることも生じ、それは患者の「正の集中」「負の集中」により、満足度が異なると学ぶことができた。人間誰しも「心のチャンネル」があり、正の集中が多いほど、とてもよい。正の集中を増やすため、治療の説明など、信頼関係を築くことが大切であると学んだ。医療者同士の情報共有する中、受け取る側は積極的に幅広く情報をとり、情報が不十分であるとき、ある程度情報を裏付けしておき、情報収集することが大切であると学んだ。医療者に求められることとして、見えない情報を掘り起こすことや1つの徴候に気づくこと、心の知らせをしっかりと情報をとることなどが重要であることを学んだ。患者との信頼関係を構築することは大切？あり、友だち関係とは異なるため、医療ミスにより通っていた病院に信頼を失い、3時間など時間をかけて病院に行くようになるため、医療者は知識・技術を兼ね備えた上で医療にあたり、患者に携わることが大切であることを学んだ。まずは、どんな些細なことでもよいから注射がうまくできるようになったなど自信をつくり、そこから少しずつできることを増やし、質を高めていくことが重要であり、現状に満足せず足りないと思う精神が大切であると強だ。本日は入学記念講演をして頂きありがとうございました。

・医療者と患者の満足度が異なることが生じ、それは4つのパターンがあり、相互に満足することがと

ても良いが、患者が満足できず医療者が満足するなど、多方の満足度が異なることも生じ、それは患者の「正の集中」「負の集中」により満足度が異なると学ぶことができた。人間誰しも「心のチャンネル」があり、正の集中が多いほどとてもよい。正の集中を増やすため、治療の説明など信頼関係を築くことが大切であると学んだ。

医療者同士の情報共有する中、受け取る側は積極的に幅広く情報を取り、情報が不十分であるとき、ある程度情報を裏付けしておき情報収集することが大切であると学んだ。医療者に求められることとして見えない情報を掘り起こすことや1つ1つの微候に気づくこと、心の知らせをしっかりと情報をとることなどが重要であることを学んだ。患者との信頼関係を構築することは大切であり、友だち関係とは異なるため、医療ミスにより、通っていた病院に信頼を失い、3時間など時間をかけて病院に行くようになるため、医療者は知識・技術を兼ね備えた上で医療にあたり、患者に携わることが大切であることを学んだ。まずはどんな些細なことでもよいから注射がうまくできるようになったなど自信をつくりそこから少しずつできることを増やし質を高めていくことが重要であり、現状に満足せず足りないと思う精神が大切であると学んだ。本日は入学記念講演をして頂きありがとうございました。

- ・ 医師と患者との間で治療効果に対する満足度に差が生じてしまう。理由として、医療者は客観的データで患者を評価するが、患者自身である主観的データは、一人ひとり異なる、つまり本人の気持ち次第であるためであることが分かかった。症状が良くなっても喜ばない人、更にささいな悩みが出てくる人、さまざまであることを学んだ。完治を望めない状態であっても、医療者は、どれだけ一人の患者と向き合ったかが重要であることを学んだ。良い医師は、できる人、良い患者は患者のことをよく知る人、良い看護師は患者によりそう自己管理、つまりセルフケアができる人であり、これらは誰一人欠けてはいけないということが分かかった。基本に忠実であることが最も大切で一番難しいということも学んだ。医療の現場では情報が非常に重要となるが、情報提供者は情報そのものを理解しないと誤った情報を相手に伝えてしまうため、インフォームドコンセントでは正しい情報を患者に分かりやすく説明することが大切であることを学んだ。情報は全部知った上で判断し、一部の情報だけで患者に伝えないようにする。医療者は情報を取りに行くことが重要で、情報を受け取る側は、主観は入れずに、すべての正しい情報を広くとることが大切であると学んだ。医療者は患者の見えない情報まで収集するよう努力し、患者の1つ1つの微候に気づくことで、さまざまなことに結びつけることができると学んだ。同事も学びが多く、友達関係と信頼関係は決して違うものであり、友達関係のようなものは馴れ馴れしいだけである。医療者は患者を友達になるためでなく、患者から信頼されるために仕事をするとすることも学んだ。本日は入学記念講演をしてくださり、ありがとうございました。

- ・ 仕事の質の向上のため医療者と患者の間に満足度の差が表れるのはなぜか視点をあてる。医療者と患者が互いに満足度の度合いが同じではなく、すれ違うこともある。満足度の低い場合にはなぜ低いか問題に向ける必要がある。患者は病気が完治していなくても親身になって関わってもらったり治療が病気について詳しく説明してもらうことで、満足度が高まるため対応には慎重にならないといけないと思った。医療において医師だけが頑張るのではなく家ではセルフケアも必要となってくるため「良い医師」から「良い看護師」そして「良い患者」といったそれぞれの役割をこなすことが大切と知った。また情報を得ることも大事であり、正しい情報を自ら得るため検査データなどを確認した上

で患者に接する看護師として「見えない情報」を掘り起こす必要がある。きっと役に立つ話では自信を持つことが大切だと教えてもらった。自信を持つためには、不安をなくすことが必要でそのためには十分な準備と行動をとることで安心につながり必要がある。

今年3年生となり、国家試験が実習と不安なことが多く自身もない。しかし、それは自分がそれに向けての順序が足りないためだと気づくことが出来た。実習では事前に看護技術を勉強し、国試では当日不安を感じないためにも前々から準備し自身のある状態にしておきたいと思います。

- ・ 医師と患者の間で治療効果に対する満足度に差が生じてしまう一つの理由として医療者は客観的データで患者を評価するが、患者自身である主観的データは、一人ひとり異なる、つまり本人の気持ち次第であるためであることが分かった。症状が良くなっても喜ばない人、更にささいな悩みが出てくる人、さまざまであることを学んだ。完治を望めない状態であっても、医療者は患者のことをよく知る人、良い看護師は患者によりそうことのできる人、良い患者は自己管理、つまりセルフケアができる人であり、これらは誰一人欠けてはいけないということが分かった。基本に忠実であることが最も大切で一番難しいということも学んだ。医療の現場では情報が非常に重要となるが、情報提供者は情報そのものを理解しないと誤った情報を相手に伝えてしまうため、インフォームドコンセントで正しい情報を患者に分かりやすく説明することが大切であることを学んだ。情報は全部知った上で判断し、一部の情報だけで患者に伝えないようにする。医療者は情報をとりに行くことが重要で、情報を受け取る側は主観をはさまずに、すべての正しい情報を広くとることが大切であることを学んだ。医療者は患者の見えない情報まで収集するよう努力し、患者の1つ1つの微候に気づくことで、さまざまなことに結びつけることができるということも学んだ。何事も学びが多く、友達関係と信頼関係は決して違うものであり、友達関係のようなものは馴れ馴れしいだけである。医療者は患者と友達になるためだけでなく、患者から信頼されるために仕事をすると学んだ。本日は入学記念講演をしていただき、ありがとうございました。
- ・ 医療者と患者の間で、治療の効果に対する満足度の差があり、両者、満足度が低いことが多いため、しっかり説明を行い信頼を得ることが大切であると思った。情報収集は自らすることが大切であり、検査データや服薬状況はもちろん、みえない部分の情報収集を行うことも必要であると学んだ。
- ・ がむしゃらに看護師になるための勉強をしてきたが、3年生になって国試や卒業が近づいてきたことで、看護師になるというのはどういうことなのかを最近改めて考えていました。今日の話聞いて、自分が看護師となった時、何を意識して働くべきか、何を自分の看護の考えの柱とするか考えるキッカケができました。また話にもあったように時間が無かったりと言って努力を怠ったことがいくつもあったので、考え方を改めて自分が今やるべきことをよそ見せずに頑張る、やりきれなければいけないポイントを見逃さず、努力を繰り返していきたいと考えました。プロとして胸を張って働ける看護師になれるよう看護学校で3年目を過ごそうと思います。
- ・ 今回、入学記念講演で、「医師と患者との満足度の差」についてきて、医師の評価からすると満足

のいく治療が得られていると思えていても、患者はもっと満足 of いく治療をしたいという思いや、面どう、待ち時間が長いなど様々な理由で治療効果の評価に差があることが分かった。そのため、できるだけ患者が満足いくよう工夫し、満足度を向上させていくことが大切であると思いました。また、状態に変化がなかったとしても、なぜこのような症状が生じるのかや、原因、病態、治療方法など医療者が患者にどれだけ真摯な姿勢で誠意をもって向き合うのが大切であるであることを学ぶことができました。

次に「後発医薬品の問題点についてで、副作用の評価が不要であることや需要の増大に対応することにより、品質管理がおろそかになって不祥事が起こってしまったりと様々な問題点があることが分かりました。そこで、医療者は積極的に情報を得たり、主観を狭まず事実を分析することで患者の安全を得られたり、問題解決につながる事が分かりました。

次に患者と友達関係になることが信頼関係ではないという話をききました。患者と楽しく、明るい話をできるようになったとしても、医療人としてのレベルが低ければ、決して信頼されているわけではないため、なれなれしくならぬようすることが大切であることが分かったため、実習で患者とコミュニケーションをとる際、気をつけようと思いました。

今回、講演をきいて、実際患者と関わる時、意識して、良い医療者になろうと思いました。

- ・入学講演を聴いて、患者と医療者との満足度に違いがあること、客観的情報と主観的情報でのアセスメントの違いからでも、長期的に治療を続けていく為には、患者の意欲に対してアプローチすることが重要となることを改めて考えさせられました。地味な努力からその人の心までみることができると、眼力が身につくこと、信頼関係は友達感覚ではないということ、何ごとに対しても「フィードバック」することが大切になってくる。問題をもう一度考えること、したいことに対して不足している部分がないか、援助を行っていく上で「不足」している所へアプローチすること、介助することである。その為には対象のことをしっかり理解しないとできない。またその人の全てを知ろうとする気持ち、理解しようとする気持ちが一番大切かことだと思いました。まずは自分自身のことを知ることが相手に知ってもらう為に基本となってくること、何事をやりとげるにしても「意志力」を高めること、目標に向けよそみしないこと今後の勉強していく上でもとても力強く励まされた言葉でした。自分の意志力を高めること、その為にはしっかりと目標を上げることが大切なことであることを改めて考えさせられました。達成できる目標から少しずつ広げていくことで無理なく行っていきたいと思いました。あたり前からそれ以上を目指したいです。
- ・医療者と患者との間で、治療に対する満足度に差が生じることがあり、患者によって良い事に集中をもっていける患者と悪い事に集中をもっている患者がいるという事を学んだ。そして患者が治療効果に対する満足度が低い場合、患者と関わる時は誠意をもって関わり、信頼を形成できるよう係ることが大切であると学べた。また患者についても自分から情報をとり、患者がどんな薬をのんでいるのかを知り、現在の患者の状態を考え、見えない情報まで掘りおこすことが大切だと学んだ。
- ・講演をきいて、治療に対し、医療者と患者との間で満足度に差がでてしまうのは、医療者は客観的にデータなどで評価し、患者は主観的に気持ち(正集中・負集中)により左右されるからだと学んだ。ま

た、医療者、患者共に満足できない場合は患者の求める治療への説明を行い、満足に近づけるようにすることが大切である。全ての治療・疾患に対して必要なのは常在戦場(医師・看護師、患者)がそろっていることである。そのため医師はよりよい技術を提供し、看護師は患者の代弁者や励ましを行い、また患者自身もセルフケア・コントロールを日常的に行う必要がある。しかし、この3つが元から完ペキであれば医療は難しくないが、揃っていないため技術の進歩だけでなく人間としての能力も高めていく必要があると学んだ。看護師として大切なことはまず自分自身のことができなければ患者に対して笑顔で看護できる訳がないと学び、私自身看護学生の中に自分の身の周りのことは自分で行えるようになっておきたいと考える。看護師として生きていく中で、軸となる自分の自信となる能力を持つことで不安を消すことができたり、当たり前のことを当たり前にし、当たり前以上にすることで心配りができ、より良い看護師になれると知れた。また、患者の言葉だけでなくよく見て、よくきくなど、傾聴・観察をし、言葉をうのみにせず、良い看護が行うことができると学んだ。

- ・岸本先生の話聞いて、1つめの視点では、医療者と患者の間で満足度の差がうまれるかという視点では、なぜか両方が満足できず、片方だけしか満足できないのか、それと、患者が思っている以上のことを行えず医療者がそれ以前で満足してしまうため両方が満足できないことがわかった。そのため、少し良くなかったから満足するのではなく、患者が思っている以上の医療を提供することが大切だと思った。

友達みたいに話してるのは信頼関係ではない。それをお手本にするのではなく、1つ得意なことを見つけ出し、それから2つ3つと得意なことを見つけ自信をつけて患者に接していくことが大切。

不安やどきどきなどはやっていないや準備していないことからきており、自信をつけるには逃げないことや責任感を強くもつことで色々な準備ができ、それが自信につながっていくことが大切。

実行できるようになる必要なものは、知識とかではなく「意志力」が大切だと学べた。

目標をもって何か行うときは、よそ見せずにその目標に向かって一直線に出来る事は大切で、やる時はしっかりやり、やらない人は言い訳でやる気が出ないだけであり、時間が無いのでなく自分でその時間をむだにしているだけだと改めて学べたため、今年は国試があるため、自分から積極的に時間をつくりに行き、勉強に時間をつくろうと思いました。目配り、気配りは大切だが心配りも大切でその心配りには人間学が必要であり、人間学がしっかり行えると、チーム医療にもっと近づけるようになる。看護を行う上で、学べることがたくさんあり、患者の反応、発した言葉を目で見て、耳で聞きとることが大切。がいけんなどの技術や態度だけでなく、内面が良いと患者はこの人に任せられると思ってもらえるため、外面だけをみがくだけでなく内面もしっかりみがくことにより良い看護師になれることを学べた。